

大成ファイケンケミカル 震災BCP対策で最優秀賞

大成ファイケンケミカル(千葉・稲生豊人社長)は、昨年9月より東京都の中小企業BCP策定支援事業の認定を受け、本社・

工場を主体にした事業継続計画を策定したが、このほど、平成23年度の支援事業の終了に合わせ、3月27日に開催された東京都中小企業BCP策定推進フォーラムで同年度の支援事業の認定を受けた75社・団体の中で、最優秀賞を受賞した。

同社は、昨年の東日本大震災で被災した本社・工場では、一部の設備破損や被災地指定による原料納入制限を受け、さらに計画停電地域に指定されるなど、事業継続に大きな危機感を持ち、事業継続計画の策定が必要であることを痛感。2年ほど前から、事業継続計画の策定を行っていたが、社内での共有化に時間を要していた。この状態を打開するための方策を思案中に、22年度から実施されている「東京都中小企業BCP策定支援事業」が23年度も継続実施されることを知り、認定を受けることになった。

具体的には、被害の低減策として、転倒・転落防止から始まり、安否確

認方法ではグループウェア導入、基幹業務システム更新、サーバーのハウジングなど。また、事業継続策では事業所全体の電力を賄える自家発電機への更新、資金の確保、製品在庫の積み増しなどを短期間で実施した。経営全般にわたる施策、経営トップの早い投資判断、従業員参加での活動に高い評価が得られ、最優秀賞の受賞となった。

受賞にあたって、稲生社長は「支援事業を実施頂いた東京都、分かりやすいご指導をいただいたニュートン・コンサルティング株式会社の皆さまに感謝したいと思えます。BCPの策定や施策の実施、訓練に至るまで真剣に取り組んだ従業員への賞であります。経営者としては、第一に従業員の命、そして職場を守ることが責務であり、また、地震の多い日本をリスクと考えるのではなく、このリスクへ対応できる日本企業こそ高い技術や品質、強い企業体質を生み、地域や社会に貢献し続けられると考えます。今後も想定の外ハドルを上げ施策を打ってまいります」と語った。